

北海道国際輸送プラットフォーム構築事業

～平成 26 年度の活動報告～

北海道国際輸送プラットフォーム推進協議会
【事務局】北海道開発局港湾空港部 港湾計画課 富岡 直基



海上小口混載トライアル第 1 便の様子

北海道開発局は、第 7 期北海道総合開発計画に基づき、北海道の農水産物・加工食品を東アジア地域等に積極的に輸出し、食料供給力や食に関する国際競争力を強化するため、札幌大学及び北海道とともに事務局を担う「北海道国際輸送プラットフォーム推進協議会」（以下、HOP 協議会）を設立し、誰でも手軽に道産食品を輸出できるプラットフォームの構築に取り組んでいます。平成 24 年度からは冷蔵・冷凍の小口貨物を簡単な手続きで香港・台湾・シンガポールへ航空輸送できる「HOP1 サービス」（以下、HOP1）を展開してきました。また、平成 26 年度には新たな展開国としてマレーシアが加わり、事業が拡大しつつあります。

北海道では台湾人を中心に外国人来道者が急激に増加しており、平成 26 年は 137 万人と過去最高を更新し、本年も更なる増加が見込まれています。外国人旅行者からは旅行中の荷物を減らし、利便性や満足度の高い「手ぶら観光」のニーズが高まっていることから、平成 25 年度には外国人観光客をターゲットとしたサービス「海外おみやげ宅配便」（以下、おみやげ便）の取扱いを開始しました。これは HOP1 を活用した外国人観光客向けの冷蔵・冷凍品宅配サービスであり、北海道各地で食べた新鮮な食材を旅行中に自国に送ることが可能となります。これまで外国人観光客が「おみやげ」として購入する食品はお菓子が中心であり、温度管理の必要な生鮮品をおみやげとして持ち帰ることは困難でしたが、本サービスの利用により外国人観光客の購入可能な商品の種類が大幅に広がるだけでな

く、旅行中の手荷物の軽減、更には移動交通機関への乗り降りやチェックインの効率化にもつながります。更に、道内のおみやげ店舗側としては海外への販路が拡大することによる売上が期待できます。

おみやげ便はインバウンド観光振興とも一体となった取組であり、今後の貨物増加が最も期待できることから、平成 26 年度はおみやげ便の推進に重点をおいて事業を進めました。具体的には、導入店舗の拡大や外国人向けのチラシやポスターを作成し、道内観光案内所等での PR や、外国人向けの SNS やフリーペーパーへの情報発信することにより海外での PR も行いました。更に、おみやげ便の購入者が自国に戻った後、リピーターとして再度商品購入できるよう、ネットショッピングサイト（以下、EC サイト）の構築も進めました（EC サイトは平成 27 年 7 月から運用開始の予定です）。

一方、HOP1 は航空輸送サービスとなっていることから、単価の低い一次産品にとっては輸送費が割高となってしまうため、より輸送費の安価な海上輸送サービスも求められています。そこで、北海道発の海上の冷蔵・冷凍小口混載輸送サービスの開始に向けて、まずは台湾向けにトライアル輸送を実施することとしました。

平成 26 年 10 月 20 日には、長いもや玉ねぎなどの農産品やラーメンのスープなどを積載したトライアル第 1 便が苫小牧港を出港しました。通常の海上小口混載輸送サービスでは 1m³ からの料金設定が一般的ですが、HOP 協議会では荷物 1 箱単位からの料金設定とすることで、小さいロットから誰でも気軽に使えるサービスの構築を目指しました。

平成 26 年度の成果としては、HOP1 輸送実績が 722 箱となり前年度の倍以上に増加し、また、本サービスの利用社数が約 100 社となり、北海道の輸出に関わるプレーヤーの増加にも寄与しています。

HOP 協議会では今後も北海道経済の発展に資することができるよう北海道国際輸送プラットフォーム構築事業を迅速かつ機動的に進めていきますので、皆さまの益々のご協力をよろしくお願いいたします。